

第23回 市民参加懇談会コアメンバー会議

－市民参加による政策検討会議－

議事録

1. 日 時：平成17年12月16日（金）10：00～12：10
2. 場 所：新霞が関ビル 1階101号室（内閣府会議室）
3. 出席者：木元座長（原子力委員）、碧海委員、新井委員、井上委員、小川委員、  
中村委員、吉岡委員  
（原子力委員会）齋藤委員長代理、前田委員  
（内閣府）戸谷参事官、森本企画官、赤池参事官補佐
4. 議 題：1. 「市民参加懇談会in福岡」及び「市民参加懇談会in御前崎」の開催結果について  
2. 次回の市民参加懇談会の開催地候補について
5. 配付資料  
資料市懇第23-1号 原子力政策大綱抜粋（広聴・広報）  
資料市懇第23-2号 「市民参加懇談会in福岡」及び「市民参加懇談会in御前崎」の開催結果について  
（1）「市民参加懇談会in福岡」について  
概要、アンケート結果  
（2）「市民参加懇談会in御前崎」について  
概要、アンケート結果  
（3）ご意見等への対応について  
資料市懇第23-3号 次回の市民参加懇談会の開催地候補について

○木元座長 お手元に資料がいろいろありますけれども、後でまたご説明することにして、時間ですので始めさせていただきたいと思います。

今ちょっとここで話しておりました。蟹瀬さんは風邪をひいてしまって来られなくなったということです。今日は本当にお寒い中、ご出席いただきありがとうございました。

今回は場所が新しいのでおわかりにくいところもあったようですけれども、また今後使用することがあると思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

しばらくこのコアメンバー会議の方もお休みしておりましたけれども、いろいろたまっているものもありまして、今日はここに書いてありますようにいろいろ討議させていただきたいんですけれども、お手許には原子力政策大綱、左に分厚いのが1つ配付させていただいております。この中での広聴・広報活動が若干書いてありますので、そのご説明もさせていただきたいと思っております。

この資料の確認とご説明の方を赤池さんをお願いしたいと思いますが、よろしく願いします。

○赤池補佐 資料を確認させていただきます。

議事次第がございまして、資料市懇第23-1号で原子力政策大綱抜粋というものがございまして。

それから、資料市懇第23-2号(1)「市民参加懇談会 in 福岡」の概要。

そして、資料市懇第23-2号(2)として「市民参加懇談会 in 御前崎」の概要でございます。

それから横長の紙でございまして、資料市懇第23-2号(3)「市民参加懇談会 in 福岡・御前崎でのご意見対応について(案)」でございます。

次に、資料市懇第23-3号で、次回市民参加懇談会の開催候補地についてでございます。

そのほかとして、席上配付資料としまして、原子力政策大綱の本体冊子、それからA3の概要を配付させていただいております。

以上でございます。

○木元座長 ありがとうございました。

では、原子力政策大綱の方の29ページを1枚紙で配付させていただいておりますけれども、それは後でお読みいただければよろしいんですが、ちょっと簡単に申し上げさせてい

ただくと、国、事業者等は、原子力の研究、開発及び利用に関して国民や地域社会が知りたい情報は何か、「原子力をどう考えているのか、それはなぜなのか」を知るための広聴活動、これを相互理解を図る活動の出発点として位置づけてということでこの市民参加懇談会の存在意義というのがここに暗に語られているわけですがけれども、それによって得られた意見などを踏まえて、広報や対話の活動を進めていくべきであると、こういうふうにはっきりと記述してございます。

それから、原子力発電に対する国民の理解を深めるために国、事業者等は電力の供給地と消費地の人々の相互理解のための活動を強化するなどの工夫を凝らしつつ、これはお名前を挙げると例えば井上チ子さんも産消交流を以前からおっしゃってますし、私も相互理解がないと原子力は成立できないという立場に立って活動してきたので、ここでこのような言葉ではっきり明示させていただき、ほっとしております。その多面的な理解、促進活動を引き続き行っていくべきであると。

それから、これらの活動は継続的に行われることが極めて重要である。つまり市民参加懇談会というのは何か事が起こったときにぱっと立ち上げて、対処療法的に物事の解消のために開くというのではなくて、継続的に、恒常的に行われることが極めて重要であると、いつも市民参加懇談会の意義として申し上げているんですが、これもこのようにここで書き加えられております。それらの活動は効果的で効率的に行われる必要がある。このところは常に反省しながら行わなければいけないということは私どもも認知しています。したがって、国が委託して実施する広聴・広報活動、これまでの取り組みについて反省し、そのあり方、抜本的な見直しを行うことも真摯に取り組んでいく必要があると。

これまでは得てして、これは原子力委員会に限らないんですけれども、原子力の広報活動なども外部に委託して、言葉は悪いんですけれども、丸投げ的に、あなたたちは広報のプロであるから、ということで大手の代理店などをお願いしてそれでよしとしたという嫌いがあるんですけれども、そのあり方も予算を含めて国全体が取り組んで見直しに入っております。市民参加懇談会も当然その中に入るわけですので、そのあり方の抜本的な見直しを行うということはこれからも私ども一生懸命まじめに取り組んでいこうと、こういう決意がここのところに書かれておりますので、あえてちょっとコメントさせていただきました。よろしく願いいたします。

さて、議題2の方に入るわけなんですけれども、市民参加懇談会in福岡・御前崎、この結果についてということで、まず資料の福岡の方に入らせていただきたいと思います。

資料を赤池さんに説明していただきます。

○赤池補佐 資料市懇第23-2号の(1)の方の「市民参加懇談会 in 福岡」の概要の方を説明させていただきます。

まず日時でございますが、平成17年9月26日月曜日の13時半から17時、会場はアクロス福岡、「原子力と暮らし～知りたい情報は届いていますか～」というテーマで行われました。

出席者につきましては、コアメンバーの先生方からは碧海先生、新井先生、井上先生、小川先生、小沢先生、中村先生、東嶋先生、吉岡先生にご出席いただいております。特に、中村先生については、司会進行をお願いいたしました。

そして原子力委員会からは、木元委員、それから齋藤委員長代理、前田委員が参加をされました。

この形式はパネリストが第1部で議論を引き出すための発表をしていただいて、その後、第2部で会場からのご意見を伺うというスタイルでやったのですが、まずそのパネリストとしては読売新聞東京本社、井川陽次郎さん、それから九州大学大学院の出光一哉さん、それから女性のくらし研究所所長、大谷鮎子さん、それからNPOエコネットふくおか事務局長、小出まするさんにご発表いただきました。

参加者としては約160名、それからプレスの方は5社が来ておりました。

内容でございますが、まず第1部の方でパネルディスカッションで発表いただいたことの概要はちょっとページをめくっていただきまして、さまざまな多様なご発言をいただいたんですけども、特に例えば1番、知りたい情報は立場によって違う。情報を受け取る側としても適切な受け取り方が必要ではないかというようなご意見とか、それから3番のように受け取る側も情報を待っているだけでなく、自ら図書館や電力会社等に取りに行くことが重要などということ。それから16番、11番、12番など、情報の伝える方、それから受け取る側のあり方についてのご意見をいただいております。特に12番などでは、マスコミは本当に必要な知っておくべき情報を新聞等で紹介することが役割である、それからマスコミの役割に関するご意見もありました。

そのほかとしては、もちろん今回は特に情報の伝え方についてのご議論をいただくということでしたが、その情報の中身についても例えばプルサーマル、それから環境というテーマでの話もありましたが、先生方からはそのようなご意見をいただいております。

そのほか第2部としましては、一般の方から、これもかなり多様なご意見を伺ったんで

すけれども、特に例えば20番、21番ですけれども、原子力について知る機会がなかったため原子力のメリットを知らなかった、事業者は情報を出しているけれども、伝わってこない、あるいは世の中の半分以上の人が原子力をよく理解していない、危険であるという情報で不安になるという人に関心を持ってもらうことが必要だと、興味のない人たちに興味を持たせる最初の第一段階のきっかけづくりが必要というようなご意見がございました。

あとそのほかとしては、24番、25番など、原子力のことを子供に教えるためにインターネットで検索するが、ヒットする数が多過ぎて目的にたどり着けない。個々のトピックスは詳しく記載しているが、原子力全体に書いてある情報は少ない、原子力に手の届く情報が欲しい。あるいは、勉強するためにネットでは情報が多過ぎるので、直接電力会社の広報に聞いている。電力会社も教え方に悩んでおり、自分からこのようなことを知りたいと言うとスムーズに教えてくれるということ。

それから、あと原子力に関する学習、それから教育に関するご意見としまして、29番、学校に役立つ情報を提供しているが、教職員が父母の顔をうかがっており、議論になるのを避けている、文科省にガイドラインをつくってほしいなどというご意見もございました。

そのほか、もうちょっとエネルギー全般のお話として、26番ですが、エネルギー問題は長いスパンで考えるべき、それから27番、エネルギー問題は子供のうちから正しい知識を教えて理解を深めるべきなどというご意見、それからあとは、これもやや中身の議論になってしまいますが、オフサイトセンターをご訪問されたときの印象、それからMOX燃料等についてのコメント等ございました。プルトニウム等についてのお話なども若干中身にかかわるものでございますが、お話をされた方もいらっしゃいました。

次の引き続きの資料ですけれども、こちらの方は会場の皆様へのアンケートの結果でございますが、1番として全体の内容、雰囲気につきましては「大変満足した」「満足した」「だいたい満足した」「ふつう」「あまり満足しなかった」というふうに聞いておるんですが、「だいたい満足した」というのが4割程度で、「満足した」が2割程度ということで、おおむねの満足はされているというような結果が得られております。

それから、ページをめくっていただきまして8ページですが、市民参加懇談会の開催時間3時間半について、あなたの考えに最も近いものの番号に○をおつけくださいというご議論については、半数近くの方が「適当だった」、それから4割近くの方が「やや長い」

というようなご意見でありました。

あと9ページの3. 市民参加懇談会の活動についての期待でございますが、「期待している」というご意見が4割、それから「まあまあ期待している」というご意見が3割というふうな結果でございます。

あと、それから4. の「市民参加懇談会 in 福岡」の開催を何でお知りになりましたかということでは、意外と友人・知人からというご回答が多くて約4割がそのようなルートということなんです。あとそれから「ホームページ」が2割、「新聞報道」が13%ということでございます。

ということで、アンケートの結果をご紹介させていただきました。

以上でございます。

○木元座長 ありがとうございます。

それぞれのご意見をなるべくたくさん、要約はしましたけれども、網羅してございますので、後で読んでいただければありがたいと思います。

ちょっと古くなってしまって、思い出すのもこうだったかな、ああだったかなという時期にはなってしまうんですが、これは開催しましたのが9月26日ですから思い出さなければならぬんですけれども、この中で特にこういうことが問題だというのがありましたらぜひ、どんなところからでも結構ですけれども、ご意見をおっしゃっていただければと思います。

昨日もある方からご質問があったんですが、市民参加懇談会というのは開催のテーマや形が決まっているというふうに思っている方がいらっしゃるんですね。いつもパネリストがいてとか、1部、2部と分かれていてこういうフォーマットでと。だけどあえて申させていただきますとこれは毎回違う。これはコアメンバーの方々のご承知だと思うんですが、形は決まっていないし、それから例えばここに出ている福岡と御前崎でも全く開催の動機とか場所、時間を決めるのでも違います、テーマも。御前崎の場合、これは一般の方々で原子力に大変関心を持って、そして疑問なり何なり持っている方々からのご提案があって、ぜひ御前崎で開いてほしいと。最初は耐震の関係でやりたいということでしたが、いろいろな紆余曲折の話し合いを進めた上で開催したという経緯もありますし、福岡の場合にしても、九州電力がプルサーマルを導入すると発表してあちこちでいろいろ話し合いを進めている中での開催ということになりました。ただ、大消費地で今まで九州でやっていないということで福岡で開催したという経緯がございますので、そういうあ

れこれが土台にあった上こういう形での市民参加懇談会であったということを念頭に置いて、何かどこからでも結構です、ご意見をおっしゃっていただければありがたいと思います。

会は、割合、和気藹々と進めてはいたと思いますが。

○吉岡委員 私も地元の人間として参加しましたので、若干の感想を、覚えている限りにおいて述べたいと思うのですが、いつも言っていますけれども、一番不満に思うのは、ただ聞きに来ている人が非常に多い。今回も非常に多かったということであり、その結果として第2部の後半には挙手をする人がほとんどいなくなって、批判的な活動をしているN G Oの人が何度も発言をする結果となった。それはほかにみんな手を挙げないわけですからフェアな措置だとは思いますが、そういう結果になったというのは、毎度ですけれども、残念であり、何とかできないものかというふうに思います。

これは今回の私たちの会だけではなくて、政策大綱の地方広聴会でも200人そこらの人が平均して出てきたのですが、十数人手を挙げるとほかに手が挙がらなくなるという、やはりそういう状況がごく普通に見られたのですが、これはやはり困るんじゃないだろうか。人に聞かせるイベントではないんだぞというように思います。市民参加懇談会は市民参加のビジネスモデルをつくる、そういうことが一番重要だと私は思っているので、皆が話す、あるいは皆が話さなければいけないということにしたい。そのためにはある程度少人数になっても構わない。それで多数来る場合には受け入れざるを得ないけれども、皆が話せるような比較的少人数の会とか、そういうことも探求してみればいいのではないかというのを、今回も切実に感じました。

とりあえずそういうところで。

○木元座長 ありがとうございます。

本当におっしゃったとおりで、ビジネスモデルを作るのはいいですね。何か案はありますか、吉岡さん、具体的に。

○吉岡委員 例えば人数としては、御前崎のやり方では第1部、第2部の2部構成です。第1部に8人から10人ぐらい地元の人を呼んでやるという方法だった。これはいいのですが、これをより全面的に展開をして人数もやや増やす、人数としては例えば20人ぐらいで、時間もかなり長丁場、場合によっては1泊2日でも構わないと思います。私の友人の小林傳司君だとか、そういう方々のやっているコンセンサス会議というのがありますけれども、そのような形で20人ぐらいで意見を戦わせコンセンサスをつくる。それは大が

かりにやると何回もレクチャーを受けてやるということになるんですけども、そこまでは無理だからせいぜい1泊2日ぐらいで密度の濃い討論会というのができないのだろうか  
など、私のイメージとしてはそういうところです。

○木元座長 若干密度の濃い勉強会的な討論会ということになるのかな。そうですね。かなり専門性の高い話もできると。

○吉岡委員 本音もできれば出してほしい。

○木元座長 そうすると、ああいう公開の場で、しかも200人ぐらいでやる場合には、どのレベルという言い方は難しいですけども、勉強していらした方のグループと、そうでなくて原子力って何というようなグループと、例えばプルサーマルをやるにしても認識の差がありますよね。そういうのはどうしましょうか、参加はしたいんだけどといわれたときに。

○吉岡委員 それは、そういう趣旨の聞いてもらうイベントもやりますから、今回はそうではありませんのでと、そういうことであきらめてもらうしかないんじゃないでしょうか。

○木元座長 またそれについてご意見があればどなたでも。新井さん。

○新井委員 これは広聴・広報ということになっているんでしょうし、私は話をするのは嫌いなものですから苦手ですし、余り話したくないんで。ただ聞きに来るというだけではまずいんですか。そういう人がたくさんいればいいじゃないですか。そういうためのものにあるものだと私は理解しますけども。

だから、話をしたくて手を挙げて云々という人は、吉岡先生はもう必ずお話をなさるらしいですけども、そういうことをもってよしとしているんでしょうけれども、そうではなくてああいう場面ではただそこに参加してその展開を聞いているということから意味を受け取る人がたくさんいるはずで、私はああいう場に、もし私が市民としたらまず絶対、手を挙げて質問することはしないと思いますけれども、私自身は。では意味がなかったか  
というとそんなことは全くないので、そこに参加しているということに意味があるということだって相当あるんですから、先ほど吉岡先生がおっしゃったような人数をまとめてやるというのは、これはまた別な考えに基づく手法なんじゃないんですかねと私は思いますけども。

○木元座長 今お話を伺って思うのは、例えば何もわからなくて勉強に来ているとか、みんなの話を聞きに来て、それでわかったのかわからないのか、ここのところは非常に関心があって、これからももっと知りたいと思うとか、そういう感想でも述べていた



だけのような雰囲気があれば随分違いますよね。

○新井委員 あれだけの人数ですからね。皆さんの前で話をするのは、所詮無理ですよ。

○木元座長 みんなが話すのはね。

吉岡さん、最初仰ったことで同感する部分は、反対意見の方がどうしても多くなって手を挙げてしまう。そうすると、手をお挙げになっているからその方たちをお願いして発言していただくということに、どうもなりがちなんです。

政策大綱を発表して、その後いろいろな地域でご意見を伺うということでフォローアップの作業を原子力委員会が行ったんですけれども、A、B、C、Dと客席をグループ分けして、均等に手を挙げていただいて、均等にお話しをいただく、ご意見を伺うということをやったんです。Aからまず1人、2人、3人とやる。そうすると、ご自分がたくさん発言なされたい方は、Aに座って、Bに座って、Cに座って、Dに座るという移動を起こした方もいるわけ。

○小川委員 1人が動くんですか。

○木元座長 1人が動くの。これはもう大変活発な方ですけれども、全部出席でした、青森から東京まで。だからそういう方もいらっしゃる、ほかの方が手を挙げない場合、やはりその方を指さざるを得ないということになりますよね。だから、ご自分が、私はこの政策大綱についてよいと思うだけでも言ってくだされば全体の反応がわかるだろうと思うんですが。

○新井委員 この問題というのは基本的に関心を持っているという人は、反対派の人なわけですよ。普通、大部分の人は賛成でもなく、反対でもないでわからないという状態にいるわけでしょう。だからどうしてもそここのところはそうならざるを得ないんでしょうね、そういう場を開けば。違うんですか、私は基本的にそういうものだ。賛成の人というのは、僕は原則としていないんだと思うんですよ。

○木元座長 そういうこともあると思うし、これは碧海さんに伺った方がいいかもしれないけれども、放送局で何か番組をやりますね。そうすると、意見を言うてくださる方はそのことのどこか、あるいは全体に批判のある方の方が声が大きいです。これは納得しているよ、これでいいんじゃないという人はいわゆるサイレントマジョリティという言い方もさせられているようですけれども、余り声をお上げにならないんです。そうすると、表面に出てきたものは反対の意見が多いということになってしまう。すると、例えばマスメディアで、新聞もテレビもそうですけれども、反対意見が多かったとなる。そしてどうし

ても発言する方とか場面のクローズアップを撮りますよね。そうすると、その意見だけが多いような、そういう雰囲気が多いような印象にとられがちであるということは事実だと思います。

○吉岡委員 今日政策大綱の抜粋なんですけれども、広聴・広報のことしか、「2-5-2」しか書かれていないのですが、これを読んでいただきますと、「2-5-4」、国民参加というものもあるんですよね。これも抜粋していただければよかったのではないかな。だから、市懇というのはそういう役割も同時に担う。そうすれば早い段階で政策決定過程に対して、広聴会や国民意見募集を行った。このような国民の注文を聞くということもミッションである。そのことが2-5-4もつければ明確になったのではないかなと思うんですが。

ですから今言った少人数の意見交換会ないし討論会というのは、どちらかというところの方に主軸があるものであり、ですから両方あっていいのではないかなと思います。これについても原子力委員会は未経験ですので。ほかではいろいろやられているようなんですけれども、実験農場的にやってみるのもいいのではないかなというのが私の考えです。多人数のイベントの否定はしません。

○木元座長 碧海さん。

○碧海委員 私は、福岡のときはやはり反対派の方の発言が目立ったと思うんです。気になったのは、反対派の方の発言の中で、例えばウラン鉱がある地域では人がバタバタと死んでいますとか、そういうような物の言い方をしたときに、もうちょっと違う方の意見をつまみそれを攻撃するのではなくて、割合とエモーショナルな発言だとか、データのない発言だとかに対して、それを多少フォローするというかそういうものがほしかった。

例えば出光さんが何か質問していらっしやったと思うんだけど、そういうようなものがもう少しあれば。つまり会場に参加している人は、この間みたいな状況だとどうしても反対意見の方たちの情報を強く耳に聞いてしまいますよね。だから私は割合と公平に物事を判断する人たちもたくさんいると思うので、その人たちについては余り心配しないんだけど、そうではない人は、あそこへ出てそういう情報をすごく印象強く持って帰るということがあるんじゃないかと。この間の福岡のときはそれがちょっと気になったんですよね。だからそれをどうしたらいいのか、パネリストとかコアメンバーがそれにいちいち答えてしまうということではなくて、本当は会場にそういう形で反論する方がいるのが、あるいは疑問を呈する方がいるのが一番いいかなと思うんですが、それはなかなか難しいで

すよね。

○木元座長 できないことはないと思うんですね。だからこの場合、出光さんがお答えになるのが一番いいかもしれないと思いますけれども、パネリストとして席上にいらして、ちょっと待ってくださいとご自分からご発言いただいて討議するのが一番いいんじゃないかと。それで真意をただしたり、事実はこちらだということをお話しになったりということがあっていいんです。ちょっと遠慮なさっていたような嫌いがありますね。だから、それをこちら側からどうやって工夫するか。余り今度こちら側がお話ししてしまうと説得してしまうという方向にもいきかねないので、そのバランスが難しい。ただ、事実誤認であるとか、全く事実無根であるとか、そういうものはその場でやはり訂正していく必要はあるだろうと思っています。

○吉岡委員 ウラン鉱で人がバタバタ死ぬというわけではないんだけど、安全を無視したひどい扱いがなされているという映画だったか、そういうものは私は見たことがあります。それを恐らくはフロアの発言者は言っていたと思うのです。ですから、それに対して話をかみ合わせるためには、どんなドキュメンタリー映画であり、それが細かくどのように描かれているのかとか、そういうようなことをむしろこちらから尋ねていくことによってその出典のリアリティ、あるいは不確かさ、そういうことが明らかになる。時間があればの話なんだけれども、それがやられればよかったかなとは思いますが。

○木元座長 そうですね。

○碧海委員 ちょっと聞いていますよね、出光さんが。

○木元座長 それをもう少し深めていってもよかったと。

やはりそこで我々は、ああそういうご意見もあるかなと受けとめるけれども、聞いていらっしゃる方の立場になってみれば、非常に中途半端な知識の導入であったりすることはよくない。やはりきちんとわかるところまでは徹底的に話す責任はあるだろうと、そういうバランスをとりながらやる必要があるということなんではないでしょうか。

あと何かございましたでしょうか。

○齋藤原子力委員長代理 関連していいですか。全く今、碧海委員のおっしゃったことで私も一つ気になったのは、例のプルサーマルで、ある方がプルトニウムの含有量が日本の場合、ヨーロッパよりも若干多いから、ヨーロッパで4,000体ぐらい使用実績があると言っているけれども、日本の場合には役立たないと相当細かく数字を挙げておっしゃっていましたね。それについては、当然原子力規制関係では、実はもう平成7年にプルサーマ

ルの安全審査に備えて、いろいろなデータを全部調べて審査指針をつくっているんですね。30%もプルトニウムが入りますと相当性質が違ってきますけれども、5%が6%になったり7%になってもそんなに違うものではないということでありまして、指針では13%までを想定してプルサーマルの審査指針をつくっています。それで13%までだったら、燃料の物性値、核特性の相違等を適切に評価、対応すれば、従来の軽水炉の酸化ウランの場合の指針が全部適用できることをバックデータも全部つけて示しています。

そういうことであるのですが、おっしゃっていた方は数字がちょっと上である、そのデータがないとそればかりでしたが、一般に聞かれている人にはすごく説得力があって、ああそうなんだなと思われてしまっているような感じがしました。私にしますと極めて誤った認識を多くの人が持たれてしまうというのが残念な感じを強く持ったんですけどね。

○木元座長 この場合、今齋藤委員が、お立場上、ずっと原子力委員になられる前からチェックしていらしたし、前田委員もそういうお立場にあって大変ご尽力なされた部分があるので、例えば原子力委員が、今日は委員長がいらっしゃらないのでどうのご意見なのかわかりませんが、そういうときに「はい」と手を挙げていただいて、こういう立場だけでも、実はこういう経緯があったという事実だけをお話したいという発言を求められてもよい。

○齋藤原子力委員長代理 よほど申し上げようと思ったんですけども、立場上遠慮しました。

○新井委員 なされた方がいいですよ。特別に専門的な話だから、何かのところでだれかがあると、冷静な場に置きかえるというようなところがないと、おっしゃるように私もあの質問は非常に気になったんですけども、岡本さんに後で聞いたら……

○中村委員 ただ、今九州はあの1点なんです、みんな。それと結局、溶けやすくなるというやつですよ、融点が下がるということ。それで制御棒のききが悪くなると、この3点セットなんです。これはもう彼らの作戦なんです。言う人がかわっているけれども、出どころは同じでみんな共有している情報で、唐津でも福岡でも玄海でも発言するという、今彼らはその作戦に出ているところなんです。

もちろん僕なんかやっているシンポジウムのときなんかはその点をちゃんとポイントにして話をするんだけど、それでも質問というか、そこで危険性が増しているという言い方を彼らは繰り返し繰り返しやるんです。ですからやはりそのアナウンスメント効果というのはあって、何も知らないというか、ニュートラルに今日は聞いてみようと思って

来た人たちにとっては碧海さん言われるように、間違っただけの情報を持って帰るという確かにそこのあるのでどうしたらいいかと思うんですが。

ただ、少なくとも原子力委員がその場で答えるというのはかなり慎重にした方がいいと思うんですよね。これちょっと御前崎との関係もあるので何とも言えないところなんです。ケースによっては原子力委員が同席されたということで非常に好印象を持った会場というのもあったんですが、逆にやはり、御前崎なんか多分そうだと思うんだけど、逆に不満の種になるという。その辺がちょっと難しいところなので、原子力委員が市民参加懇談会の現場にいらっしゃるのがいいのか悪いのかというのは本当によくわからない。ケース・バイ・ケースです。非常にいい印象を持ってくれたなというときもあれば、幾つかのところにあるかもしれないんだけど、何かアリバイづくりに来たんじゃないかみたいな、市民参加懇談会自体の存在についても非常にうさんくさい目で見ると、それとの関係がどうもありそうな気がして、そこが原子力委員の同席というのはどうなのかなというのが一つ。

それと、やはりコアメンバーというものがほとんど理解されていない。多分、不満の声というのはほとんどそうですよね。

○木元座長 コアメンバーの立場ね、どういう立場でここにいらしているのかと、それなりのご見解もあるだろうと、そういうことでしょうね。

○中村委員 それが討論しに来ているんだとどうも受け取っているみたいですよ。それを考えると、やり方というのはいろいろあるんだけど、立地の場合にはやはり御前崎みたいなやり方しかないのかなと思うんですが、特に消費地あるいは隣接地でもない中小の都市というような場合には、福岡のケースのように広く情報として原子力について話せるパネルディスカッションみたいなのがあって、必ずしも長時間である必要はないんだけど、その後にご意見を聞いていくという。そうすると、パネリストに対する質問やご意見というのも当然あるわけで、そのやりとりを聞いてもらうというのはちょっと大事なところなんです。

コアメンバーが対話の当事者にならないわけですが、我々。聞き手ではあるけれども、意見交換ではあるけれども、討論はしないという微妙なところですよ。ですから、ビジネスモデルができれば一番いいんですけど、どうもやはり今までの経験から言うと、ケース・バイ・ケースでここに適した構成はどのような構成になるのかと、御前崎方式か、最近で言えば福岡方式か、あるいは第三の方向かという、そういうのはやはりそのたびに選

択してやるしかないのかなという感じなんですけどね。

○木元座長 東電の不祥事の場合の市民参加懇談会、埼玉で開催したときは、当事者にあえて来ていただいた。そして当事者の方々から弁明もあったし、ご説明もあった。参加された方では満足した方もいらっしやったし、あれはまずいんじゃないかという方もいらしたんですけども、それもケース・バイ・ケースで考えていくべき事項として継続して話し合っていくのでしょうか、その都度。

○中村委員 やはりそういう間違った情報を声高に開陳された場合にどうするかというのは一番大事なところなんですけど、ただそのために説明要員を用意したというケースがあるじゃないですか、敦賀でしたっけ。

○木元座長 それは当事者という形でね。だから、東電の場合は東電と保安院でしたし、敦賀の場合は核燃サイクル機構とか、文科省とかいろいろいらっしやいました。

○中村委員 それで1回失敗しているじゃないですか。

○木元座長 客席から話されたケースですけどね。

○中村委員 僕らの説明要員の立て方というのに課題があったんだろうと思うけれども、彼らは説明したくてしょうがなく来ちゃったわけですよ。

○木元座長 勘違いしちゃったのね、ちょっと。

○中村委員 だからそういうやり方もちょっと問題なところがあるし、そこをどうするかというのはこれからやっていくのに結構大事な。

○木元座長 だから、やはりそれを積み重ねて、今回は前回の形ではなくこうする。また別のケースの場合にはこうしてくださいということをお願いして、じっくりお話ししてご納得いただくという方向でないとだめですね。

○碧海委員 私はあのとき、外国ではもっとパーセンテージが少ないのに日本は多いんだと言われたので、外国というのは具体的にどこですかと質問しましたよね。そうしたらフランス、ドイツだというふうに言われたけれども、そのときにドイツがたしか4%とか言っていましたよね。その3%、4%と6%では何が一体どう違うのか、その2%多いと何でそんなにいけないのかとか、つまり専門的な質問ではなくていいから、だれもが感じそうな、なぜ日本では6%なのかとか、そういう質問をやはり会場にいる人がしてくれることが一番いいんですね。

だから、そういう意味で私は説明者でなくてもいいから、ある程度意識してぜひ来てほしいというような人に来てもらって、専門家ではなくていいからもうちょっと何か、一般

人としてだけれども割合と客観的な、あるいは理性的な、科学的な質問をしてくれるようなそういう人がいてバランスがとれるのがいいんだと思うんですけど。

○木元座長 そうすると、少しこちらが恣意的にコントロールしなければいけないということになるとまた問題にもなる。

○碧海委員 だけど日本の場合、御前崎にしても福岡にしてもそうなんですけれども、余りにもちょっと非科学的というか、そういう発言が多過ぎますよね。つまり、何も原子力に限ったことではなくて。

○前田原子力委員 ちょっとよろしいですか。今回は「知りたい情報は届いていますか」というテーマだったんですね。例えばプルサーマルについての討論会とかいうのであればテーマが限られ、焦点が絞られるからいろいろ技術的なやりとりができるけれども、こういうテーマであると何が出てくるかわからないわけですね。何が出てきてもいいわけで、我々は本当にどういう情報が届いているかどうか、その辺皆さんがどう考えているかを伺いに行っているわけなんだから何が出てきてもいいわけなんですけれども、そのときにそういう間違った事実誤認に基づくようなご意見や何か出てきたときに、ではコアメンバーの方がそれに対して技術的なことにお答えができるかという恐らく非常に難しいだろうと思うし、そのときに原子力委員が出ていれば答えられることは相当あると思いますけれども、さっきのようなご意見もあって、原子力委員がその都度、立って対応するのがいいのかなども非常に問題なんですよね。

だけど私が思いますのに、原子力委員として出ていって、現場で皆さんの一般の市民の方のご意見を聞くということには、僕はやはり我々が出ていっている意義はあると思っていますと思うんです。

そういう変なご意見が出たときに、我々がそれに対して、それは違いますよと言うのがいいのかなどうか。本当はやはり言うべきなんだろうと思うんだけど、そこは非常に悩ましくて、今まではほとんど発言していませんけれども、そこはちょっとコアメンバー会議でそういうときにどう対応するのかということをお前さんが議論していただいたらいいと思うんです。たとえ原子力委員が出ていても、原子力委員でも答えられないようなことがあると思うんですよ。耐震の問題、難しい問題が出たりしたら、そういうときには恐らくそういうのは今のご意見に対しては、帰ってから例えば保安院なり何なり、安全委員会なり何なりに確認をしてホームページでそれをお答えしますからというようなことを会場に出てこられる方にお伝えするというような何らかの対応をしないと、間違った意見を言

われっ放しでそのままだと、本当に何もご存じなくて参加されている方はそれが本当だと思って帰ってしまわれるとこれは非常にまずいと思います。

だから、何かそういう対応の方法、やり方みたいなことをちょっと議論をして決めておいた方がいいんじゃないかと思いますけれども。

○木元座長 事前に予測できるようなテーマの場合は、こちらがきちんとそれを踏まえてうまくお話し合いができる形を考えていく、こうという方向でいきたいと思いますが、突発的に出た場合、それをそのまま「はい、そうですか」で帰ってくるのか、それを「ちょっと調べさせてください」と言って帰ってくるのか、その場で反論できる方がいらっしやれば反論するとか、そうするとその都度になるのかな。

吉岡さん。

○吉岡委員 何か間違った情報、意見とか、非科学的情報とか、盛んに言われているけれども、私から見ればこの辺、間違ったとまでは言えない、非科学的とまでは言えない。市民グループも勉強していて、その勉強の背景にあるのはやはり国際的なプロ集団もいるわけでございます。そこでフランスではプルサーマルのMOX燃料の入れ方がどうであるとか、プルトニウムは3年でやるが、ウランは4年でやるとか、いろいろな話を共有されているわけです。また、実験段階でシミュレーションでやるのか、あるいは商業的に実証されているのか、その違いも教わっている。そういうことも含めて情報はあがるが、発言ではそれを単純化していつているわけであって、背景にはそういう複雑な知識というのを持っている方もおられるわけでございます。ですから、間違っているとまでは言えない、ある種有利な側面を強調するとか、そういうところはあるんだと思うけれども、その辺は原子力サイド、推進サイド側にも同じようなことが言えて、間違っているとまでは言えないという、私から見ればそういうのが多いわけでありませう。

ですから、そこで説明したらまたプロ級の人にもいるわけですから、そこで反論してきてますます話が生活実感とは浮いたものになるという気がいたしますので、そこは慎重にやられた方がいいんじゃないかと。

○木元座長 それは市民懇のレベルの上に成り立っていくのが基本で、だけれどもどうしてもおかしいと思うところはそれぞれのケースでお話し合いを続けていきましょう、ということになると思います。私自身の経験からいっても、これは市民懇の場ではないんですけれどもご意見をいただいたときに、その資料はどうもその後随分改善されているいろいろな施策ができています。フランスの例でしたけれども、1980何年の資料をもとにのご意見



なんですね。だからちょっとびっくりしたということがあるので、それをそのまま金科玉条のように持っているのとズレたやりとりになるので、では後で資料を送るからと言いましたらそれきりになってしまったんですけれども、多分それでおわかりいただけたと思っています。

だからいろいろなフォローの仕方があるだろうと思うので、それはその都度やらせていただこうと思います。

今いろいろなご意見をいただき、もっともだと思うことが非常に多いし、あと今の件に関して小川さん、井上さん、もう少しフォローしていただければ。

○小川委員 やはり福岡で反対のプロの方々の発言が目立ったという感じはありました。でも、それは仕方がないのかなと。反対のプロの方はいろいろな機会を通じて何度も何度も繰り返し言っていくというのがやり方でしょうから。またそこで、反対する方の意見に対してそれはちょっと違うんじゃないですかと言う人が出るとしたら、討論になってしまいますよね。そういうふうになるとちょっと收拾がつかなくなってしまうのかなと思いますので、そこはどのようなふうな解決をするかということなんですが、一つ思ったのは、パネリストの方とか意見を言う方は初めから何人、10人とか決まっているわけなんですけれども、一般参加者に関しては申し込み用紙があるわけですね。それでそこにご意見欄というのは、今まで聞いていましたっけ。あなたはこれに関して意見がありましたら記入して下さいということ。

○木元座長 聞いていました。ご意見あったらお書きくださいと。

○小川委員 書いてくださっている方を会場でそれをちょっと引用させていただいて読ませていただいて、だれだれさんいらっしゃいますかというやり方はできないかなと。そうすると、最初に中村先生問題にされたプロの反対の方が何回もやってしまうのが避けられるのではないですか。ほかの人に発言機会を振り向けるため、だれだれさん、こう書いてくださっていますね、いかがですかと、こちらから聞けば発言すると思うんですよ。

○木元座長 それはちょっと事務方の立場で言わせていただくと、実は、募集のときにご意見を書いてくださる。その際、パネリストとして出て意見陳述をしたい人と、パネリストにはなりたくないけれども意見を持っているという人と、当日出席し意見もあるけれども発言はしたくないという人と、何も書いていない人といろいろあるんですね。だからそれをどうやって整理していくかという作業はあるだろうと思います。ご意見としては確かに書いてある場合、名指しで伺ってくださってもいいと思う。

私がこれまでにやっているのは、1部と2部の間に休憩があるとき、当日、1部を聞いてご意見があれば紙に書いてもらい、2部が始まるまでに集める。名前も書いてもらう。そうすると、それは活用できる。実は会場にこういう方がいらっしやってご意見をいただいたけれども、もしよければご発言をしてください。お手が挙がらなければ読ませていただきます、という方法はとったことがあるんです。だからいろいろなやり方あるかもしれないけれども、司会をしている方はそれなりにまた苦労がある。中村さん。

○中村委員 確かにそれやったことありますよね。それでいい意見が出たというケースもあるんだけど。

○小川委員 手を挙げると挙げないとは、大きな何か一つハードルがあるような気がするんです。向こうからというか、司会者の方からどうですかと言われたときの言いやすさというのは、私はあると思うんですね。ですから、そういうケースがあってもいいんじゃないかな。同じ人が2回意見を言うよりはよいと思います。

それから、原子力委員の方が出ていらっしやるのは、私はいいと思います。やはり場とか空気とか、風とか、それは感じていただいた方がいいと思うんです。ですからそれはご出席された方がいいと思います。

○木元座長 これは市民懇だったか忘れましたが、福島だったと思うんですけども、委員長がいらしていたから近藤さんに質問したいというので、お答えいただいたケースがありましたね。そういうこともありなんですよ。それならば堂々とできるかもしれない。

○新井委員 やはり大事にされているという感じを受けますね。

○木元座長 そうですね。

○中村委員 僕も基本的には出席した方がいいと思うんですよ。

○新井委員 中村さんが何かおかしいと思う理由が、ちょっとよくわからないんです。

○中村委員 おかしいというのは？

○新井委員 いない方がいいんじゃないかと。

○中村委員 いない方がいいんじゃないかじゃなくて、いることによって余計不満が残るケースがあるということです。

○新井委員 どういうことですか、それ。そこはよく私には理解できません。

○中村委員 というのは、だって前田委員でも齋藤委員でも、じっと我慢の子でいるわけじゃないですか、基本的に。

○小川委員 原子力委員の方が我慢されるのはちょっと……。

○新井委員 原子力委員の方の方が出たくないという意味ですか。

○中村委員 全然違います。

○小川委員 会場の方がですね。

○中村委員 会場の話ですよ。

○小川委員 会場の方が、アリバイづくりじゃないかというイメージがあるんじゃないかという。

○前田原子力委員 原子力委員が出てきているんだったら、彼らは、どうしてあなた方発言しないんですかと、こういうことですか。

○中村委員 そうです。なぜ発言しないのか、それ以上のことを彼らは多分考えていて。

○新井委員 以上のことというのは、どういうこと。

○中村委員 つまり議論したいということですよ。直接やりたいということですよ。そこがいつも、多分決まった層の人たちなんだろうと思うけれども、アンケートで不満だったというところには、そういうのが必ずどこに行っても入ってくるというのでね。

○木元座長 だから会の最初にご説明しているのは、討論会ではありません、主役は皆さんです、皆さんのご意見をまず伺うことから我々は始めていますとまずやって、だけれども何かある場合には……

○中村委員 本当に委員長以下並んでいらっしゃるというのは会場としては、ああちゃんと聞きに来ているんだという非常にいい印象を持ってもらっているということはもう確かで、それが物すごくうまくいっているなというときはあえて最後に近藤委員長から一言みたいのをつけたりもしたんですけれども。

○木元座長 その場でね。それもそのケース・ケースですね。

○中村委員 その辺がやはり場所によるんです。それから、今話題になっている例えばプルサーマルの数値的なことも規制の範囲内、しかもずっとレベルの低いところなんだから、2%、3%の話というのは本当は議論するようなところでもない話なんだけれども、議論したがる連中は結局そのところだけを言うわけですよ。それは確かに吉岡先生言われるように非科学的でもないし、単に感情的なことでもないの、間違っていることでもない。それはもう確かなんだけれどもね。

だから、行くところにもよるんですよ。だから、我々がやはり場所を選定するときに福岡というのは一応消費地のつもりだったけれども、隣に玄海があるということで、待っているほうの議論したがる人たちにとっては、おお来た、プルサーマルだという受け取り

方だったから、そこで全体の流れもそのところがすごく目立ってしまって、1部でやった議論、パネルディスカッションの方のいい部分というのが2部に持ち越せなくて、客観的に見ている人の声にもあるけれども、反対派の人たちが意見発表する場になったとかいうことに受け取られてしまいますよね。その辺が難しいです。

○小川委員 第一発言者というのは、すごく重要ですよ。

○木元座長 会場からのですか。

○小川委員 第2部になって会場からの。だけど、そこをねらってくるわけですから、それはもうしょうがないというところありますよね。

○木元座長 それだけご熱心で問題意識を持ってという解釈であれば、当然前に席をとって「はい」とやるのはあり得ると思いますね。

○小川委員 ある意味、それでかなり雰囲気。

○木元座長 ありがとうございます。井上さん、ご意見をどうぞ。

○井上委員 アンケートのところで、9ページの福岡の、何で開催をお知りになりましたかの新聞報道が非常に低いので、都市型というか、地域というよりも都市ですね。友人・知人からの比率が断トツ高い。これがちょっと、あら福岡なのという疑問があったので、報道のという、広告の仕方が何か変わっていたのか、いつもと同じようにされてこういうことなんで、この比率がちょっと極端なので、あらと。どこでもそうでしたっけ、知人・友人これだけ。

○木元座長 ちょっと多いですよ。

○中村委員 新聞告知でというのはもうちょっと多いですね。

○井上委員 ということは、それは参加者の人たちの層といいますか、色合いにも少し影響。

○木元座長 これは私の感触というか、後から伺ったことによると、実はその前に佐賀県の玄海でシンポジウムをやった。九州電力主催でご意見を聴く会をやったんです。私がコーディネーターをしたんですけれども、そのとき会場に入れなかった方がいらしたんです。それは事前に申し込みがしていなくて、当日車で何人かのグループでいらしたのですが、ルールだということで入れなかった。次回九州で意見を言える場はないかということがあったので、実は原子力委員会としては市民懇がありますということを申し上げました。それを聞いたという方が結構いらしたのは後で伺いました。

それから、小出まするさんがグループを持っていらして、かなり口コミでやってくださ

ったということがあったということの後で伺いましたね。だから若干ふえています。本当はそういうのが……

○井上委員 いいことだと思うんですけどね、友人・知人。それが1点と。

あと、先生方のお話聞いていても思うし、会場に参加していても思ったんですが、市民参加懇談会の懇談会が、だれとだれが懇談しているんだろうとだんだん思ってくるようになって。意見がいい、悪い、正しい、正しくないは置いておいたとして、市民参加意見発表会で流れ解散的に聞いて終わりというようなことになっているような気がする。参加している方にとって、特に地方の都市は国の政策とか、大きなテーマに関して国はどうなっているんだろうと、情報を直接聞きたいと思ってこういうところへ参加すると思うんです。そうしたときに、地元の意見は確かにいろいろ聞くが、それに対して知りたい情報というのは事実としての情報とか、本当に今事実はどうなっているのか、また、それは国としてどうなっているか、学問的にどうなっているのかとか、知りたい、これが今ノーマルな情報ですよとか、大方、大半の認知されたものですよということを聞きたくて来ていると思うので、それを提供することに躊躇することはないのではないかなと思うんです。

それが自分たちの説明に終始するのではという心配は、お話しなさるときの表現でそう思われないように言えばいいので、事実誤認に対しては正しい事実をきちんと、それは訂正するなり、討論のきっかけになってもいいけれども、きちんと申し上げることがこの会を開くやはり一つの大きい意味ではないかなと思うので、私が一市民で参加していたらそう思うんですね。いろいろ意見出たけれども、本当はどうなの、みたいな、そのところは聞かせてほしいというふうに思うんですけど。出っ放しでさようならというのは…

○木元座長 今井上さんがおっしゃったことで、内部でもいろいろ意見が出てきています。市民参加懇談会の懇談は何なのかということと、それからその後、私も常に言っていることですが、相手を理解してからこちらの言っていることも理解していただくという、一致はしないにしても、相互に理解し合う部分を大事にしよう。その相互理解の観点からだったならば、懇談という形であれ何であれ、もう少しコアメンバーなり委員なり、あるいは客席の方たちと懇談する雰囲気、つまりディベートするのではなくて、懇談する形で展開していける、相互理解するという方向があってもいいのかなと思います。

今日、実は議題の中には入れていないんですけども、今後の市民懇のあり方ということで、もう一度、次年度になったときに考える場所を持ちたいなどは思っています。その

ときに今日のいただいたご意見を踏まえながら、議論していただくと思っています。

今は福岡の件を話しながら、実は市民懇談そのものの本質論にいつてしまっているようなところがあるので、それを踏まえながら今度は2回目の方、御前崎の件に移らせていただいて、またこの続きを少しトークしたいと思いますが。

また事務局の方から、すみません、お願いします。

○赤池補佐 資料市懇第23-2号(2)の「市民参加懇談会 in 御前崎」の概要の方をご説明させていただきます。

日時としまして、平成17年10月5日、13時半から17時、場所は静岡県御前崎市の新野公民館、テーマとしましては「知りたい情報は届いていますか～これまでと、これから～」ということでございます。

市民参加懇談会のコアメンバーとしましては、碧海先生、新井先生、井上先生、小沢先生、中村先生、吉岡先生。特に中村先生には、司会進行をお願いしました。

原子力委員会からは、木元委員、それからオブザーバーとして近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員がご参加されております。

市民の方からのご意見発表としまして、10名の方からご意見を発表していただいたんですが、そのうち4名につきましてはそれぞれの例えば漁協、農協、商工会、女性関係の団体からということでご推薦いただいた方、それからあとそのほかの方は市民の方からということでご意見を発表していただきました。

参加者としては約240名、プレスとしまして20社でございます。

意見の方を簡単に説明させていただきますと、第1部で事前に依頼しました市民の方10名からご発言をいただきました。これに関して若干のコアメンバーの方からの質疑というものも行われています。

第1部での発言につきましては、それぞれのお立場からいろいろなご意見があったんですけども、例えば2番、3番ですが、情報の伝え方として企業の不祥事がクローズアップされるようになり、企業の情報開示が重要視されてきたために、情報は入りやすくなっている。また、回覧板、原子力の情報誌、CATV、説明会なども入ってきている。ただ、原子力発電所のことになると理解しにくい感があり、わかりやすいように説明をお願いしたいというようなご意見。

それから3番として、原子力発電所の見学会や講演会に参加し、不安のない、丁寧な説明に心配しなくていいと感じたというようなご意見とかもございます。

あと、それから地元の産業振興との関係で、例えば1番のようなご意見。それから、9番のようなご意見もいただいてもございました。

そのほか、やはり中部電力さんのプルサーマルに向けての戸別訪問の話題、11番。それから17番の件、それからあと地域柄でございますが、中身にも若干関係しますが、地震に関する情報の伝え方のあり方、例えば4番、それから5番などという意見もございません。

そのほか、15番でございますが、磯焼けなどのご自身のご経験とご認識をお話しされた件などがございます。

それが主な第1部のご意見でございました。

また、第2部でもこちらでは非常に多様なご意見をいただいたんですけども、1番と若干重なりますけれども、地震を含めた安全対策の意見として、20番、それから23番、それから25番、26番などのご意見、それからあと核燃料サイクル全体への情報伝達についてのご意見とか、例えば21番、22番でございます。

そのほか、あとプルサーマルの導入に関しての情報伝達の件では、例えば24番でございますが、ヨーロッパで35基プルサーマルの使用実績がある。先行ヨーロッパにいろいろな話を聞き、安全性を確認して推進してもらいたいと。他の地域から反対派が来るが、住民自身納得した上で受け入れ体制をつくりたいなどというお話もございました。

やはりそのほかとしましては、例えば34番ですけども、地震は地震、原発は原発と情報が別々に流れており、これを一つにした情報が届いていないなどという情報伝達体制のあり方に対するご指摘もあったところでございます。

あと一番最後のページになりますが、若干例えば原子力Q & A集のようなパンフレットの表現ぶり、それからあといろいろ電源三法交付金等についての情報の開示の問題等についてのご意見もあったところでございます。

以上が「市民参加懇談会 in 御前崎」でのご意見の概要でございます。

引き続きアンケート結果でございますが、1番、満足度ですけども、「だいたい満足した」というのが3割、それから「満足した」というのが1割、「普通」というのが2割程度でございます。

そしてさらにページをめくらせていただきまして10ページでございますが、開催時間につきましては、やはり半数程度の方が「適当だった」ということで、あと2割程度の方が「やや長かった」と。

それから3番ですが、市民参加懇談会の活動全体についての期待ですが、4割の方が「期待している」が4割、それから「まあまあ期待している」が2割、それから「大いに期待している」が1割ということでかなり期待が大きいというご回答をいただいております。

あと、開催を何で知ったかですけれども、こちらの方も「新聞報道」が35%、「友人・知人から」が33%という状況でございます。

以上、ご説明でございます。

○木元座長 ありがとうございます。

先ほどもちょっと申し上げましたけれども、福岡のときも、それから御前崎のときも口頭であったり、あるいは個人的なお手紙であったりメールでくださったりということで、後から感想文なりご意見なり、いろいろいただきました。それはこの中には含まれておりません個人的なものにはご質問に答えることにしています。

実は今日、当日もご参加でしたけれども、この御前崎でやってほしいということはずっと私どもの方に要請していらした東井さんから要望書というのがけさになって届いております。これをぜひ皆さん方に配付してほしいというご要望がありますので、配付させていただきます。

この方はちゃんと当日も来てくださって、大変に問題意識を持ったグループとして私は評価させていただきます。

そういうことで、こういうご意見を踏まえながら、では御前崎どうだっただろうねという話をこれからさせていただこうと思います。

東井さんのご要望は、何度も申しますけれども、最初は地震とは切っても切れない御前崎だから、そして今地震のことが気になっているので、地震が来ても大丈夫だという意見と、いやとてもじゃないけれども、だめだという意見と戦うような感じのものをぜひ目の前でやってほしいと。自分たちもそれに参加して意見を言いたいというお気持ちがおありになったのですが、市民参加懇談会の精神からいって、もし地震に不安があるならば地震について、あるいはプルサーマルについて不安があるならばプルサーマルについてまず、皆さん方がお考えになっているご意見を承って、その上で皆さん方のご意見を政策策定のプロセスに反映し、あるいは次からの政策を策定するときの展開に役立てたいという気持ちが基本にありますので、そういう形でやらせていただきたいということで、場所とか日時とか時間とか、いろいろご相談しました。そのとき場所が中部電力の浜岡、御前崎です



ので、プルサーマル導入、公表の寸前だったと思いますので、大変ご懸念が多かったのは事実です。ですから、それも含めてご要望もいろいろ考慮しました。

またちょうどそのときに、テロ対策のことで厳しいお達しがありました。ここに、警備が異常だったと書いてあるんですが、その異常さというのは御前崎だけではなくて、あちこちでも続いたことは事実だと思います。

それと先ほどもちょっと申し上げたように、その前に私がコーディネートした玄海での会のときにもかなり厳重でした。それで事前に申し込みいただいた方以外は入れないという原則を通しましたので、ここでも入れませんでした。そういうような大変厳しい状況があったことは事実だと思いますが、これはそのときの情勢で、今後もっと厳しくなるかもしれません。

あと、野次のこととかいろいろ書いてありますので、これはご要望というかご感想として承らせていただき、これも一つのご意見として私どもはきちんと把握させていただこうと思っています。お手元に配付いたしましたのでよろしく願いいたします。

これも含みながら、そのアンケートの意見、それからご自分でお感じになった御前崎の状況、そういうものをお話しいただければありがたいと思いますが。

司会なさった中村さん、両方やっていらしていかがでしたか。いろいろな市民懇があるんですが。

○中村委員 後ろについているアンケートの一つ一つのご意見の中で、よかった、大変よかったという人の意見を中心に改めて読んで、それで判断しようと今思っています。

さっきから、よくなかったという人の意見ばかりずっと読んでいるものですから、どうも僕自身もどうしたらいいのかなと思ってしまったので、それはそれとして、逆に今度、よかったという方の意見から見ていって、御前崎でやった意義というのは感じてくれた方たちもかなりいて、浜岡だけではなくて御前崎市になったということでいろいろな意見の人がいるということをお互いに知ったというのが収穫だというふうに受け取ってくれた人の声を大事にしたいなど。

第1部のやり方というのは、この市民参加懇談会の基本形の一つなので、これはやはり大事なんだなど。地元の人でもやはりああいうふうにしてしっかり発言してもらわないと、賛成の立場にしろ、反対の立場にしろ、慎重の立場にしろ、やはりお互いになかなかそうわかり合えるものではないんだなと感じましたので。改めて第1部の方式というのは、さっき吉岡さんからもっと増やしてもいいという話もありましたけれども、ケースによって

は僕もそれがメインで、会場からのやつは30分ぐらいの自由発言にして、地元の発言者というのをもうちょっと充実させて一挙に、それこそ20人ぐらいでやっちゃおうと。

○木元座長 発言なさる方を決めちゃってね。その方がいいかもしれないな。

○中村委員 その方が、我々も懇談のスタンスに立てるように思うんですよ。会場からのやりとりだとやはり、なかなかコアメンバーとしても難しいですね、さっきから話が出ているように。説得になっちゃったり、説明になっちゃったり、議論になっちゃったりというのがあるから。だけど、発言者がちゃんとした、自分で用意してきた発言をしっかりとされて、それについてコアメンバーが質疑すると。これをやはり一つの懇談というふうに受け取ってもらうというか、ここの部分を充実させるというのを我々の方としても、ではどういう聞き方、どういうさらなる意見の引っ張り出し方をしたらいいのかというようなことを考えるのが大事なのかなと思うので。

○新井委員 吉岡先生が最初おっしゃったのは、20人というのは会場があって20人という意味ではなかったんでしょう。

○吉岡委員 聞きに来る人を排除するものではありませんが、基本的に話す人をゼミ形式で絞って、より長時間やろうという、そういうことです。

○新井委員 中村さんがおっしゃったのは、逆に20人ぐらい多くしておいて、会場は会場でどっと200人でも100人でもいるという、そういうイメージですね。

○中村委員 そうです、そういうイメージですね。ほかの市民の人たちに聞いてもらうというのをやはり。

○木元座長 これは、やはり3年間いろいろやってみての反省ですよ。会場からとるというのは最初から意見が多くて、会場の方たちを中心にしましょうというのが強かったので、ああいう方式をとったんですけれども、だんだん変化してきて、一番効率がよくて話が見えて、発言しないけれども聞きたい、とさっきおっしゃった人にとっても充足するというか、充実するというやり方は何なのかというと、今中村さんがおっしゃったような方式かもしれない。

○中村委員 本当は新井さんが言われたように、どこに我々も目をつけるべきかなんだけれども、一番大事にするのは本当に揺れ動いている人で積極的に推進でもなければ反対でもない、ただ必要性については少し理解しているかなというぐらいのいわゆる市民の人ですよ。これについて、例えば立地だったら立地なんだけれども、ほかの人はどう思っているんだろう、それから立地ではないところではそう言われたらそうね、私は余り考えて

いないけれども、ほかの人はどう考えているんだろう、それを聞いてみたいというのはやはり市民としての大事なモチベーションですよ。そういう人たちというのをやはりベースに僕らも想定してやるのが大事なのかなというのは感じてますけどね。

○木元座長 だから出ていただく方をきちんとこちらが交渉してお話し合いして選ぶという作業は続けていきたいなと思います。

それで今、今日いただいた東井さんからの要望書の①のところにいろいろ書いてありますが、下から2つ目「意見の異なる者が同席の上で、発言し合い、聞きあうことができた」こここのところですよ。「思ったよりよかった。」よかったですね、本当に。

それから、その下の「言っぱなしではなく回答をほしかった」と。やはり東井さんもそうお感じになった部分がある。それは今日私たちが話したことと重なる部分もあるんですけども、これは工夫する必要がありますね。

あと東井さんから木元のこといろいろ書いていただいて、これは個人として承っておきます。

それで、御前崎の場合、その後に私は御前崎でまたコーディネートをし、ご意見を聞いたんですけども、市民懇の方がはるかに良かったです。

○小川委員 公開ヒアリングですか。

○木元座長 公開ヒアリングという言い方、もう今はそういう言い方しないの。ご意見を聴く会。もちろん公開です。

6人市民を選んで、それから吉岡先生にも出ていただいたんですけども、地元からの電力と保安院の方が出て、それから学者の方、本当は4人来ていただきたかったのがお1人だめで3人いらした。吉岡さんにはわざわざ九州から来ていただいて。というのは、名古屋ではそういう学者の方というのは余りいらっしやらないとか。

○吉岡委員 私は何人か知っていますが、どちらかという対話をしてもらいたいというアカデミックな反原発派が多いように、私としては認識しております。

○木元座長 だから現場の学者方みんなご遠慮なされたというか、嫌だとおっしゃったので九州から来ていただいたということがありました。

そんなことがあるので、やりにくかった面も多分あったんじゃないかと思います。

それで会場からは、これは我々がやった以上に反対派の方ばかりでした。声を出して一生懸命手を挙げるのは。東井さんのグループは正面にいますから。これも元気だった。

でも、私は割合その入場とか発言してくださる方は本当にフェアに選んでいるという気

がしました。ただ、賛成の意見をお出しになる方がだんだん遠慮してしまっ、問題視されて発言されている反対派の方の声に圧倒されたのか、会場から反対意見が出ないんです。賛成の方いらっしゃっていると伺っていたんですけれども、手が一つも挙がらなかった。後からと言ったら、いや気落ちしちゃったとか、もうわかっていることだからとかそういう意見が出たので、それに比べれば市民懇は少ないにしても随分活発に出た部分があったなという気がしますね。それでも少なかったと中村さん、感じましたよね。

○中村委員　そうですね。これにもあるけれども、やはり東井さんを100%、事前の話から信じていたわけではないけれども、ああやって聞いてみると必ずしも彼女の分析というのが、正しかったかどうかということはあるけれども、でもやはりアンケートにも書いているぐらい、浜岡の中では話をお互いにしにくいというのはどうもやはりあるんだなというのがありますね。だから、あそこで発言者になってもらったから勇気ある発言というか、極端な推進論というのも初めて聞いたような気がするんだけれども、商工会としてはもう何か本当に勇気ある発言だったのかなという気がしますけれども。あれはやはり会場で挙手では無理ですよ、あの方でもきっと無理だったと思うんですよ。ただ、発言者としてお願いしているから、自分としては一応論理構築をしてお話しになったんだと思うのね。

○木元座長　それでもう一つ感じたのは、私が御前崎でやりましたときには、壇上から参加者を見おろすセットだったんですよ。その感じも、市民懇を見ていた方からは嫌だというのがありました。

やはりフラットなところでやってほしかった。何か威圧的だし、説得されるという感じと受けとめた。ただ、それだけ多く入る会場がなかったということもあるのかもしれないけれども、我々のところは体育館みたいな感じだったでしょう。いすを並べて。会場から行ってあの方がよかったのかもしれない

という御前崎の印象なんですが、先ほどから話していただいておりますけれども、このときにも市民の方がきちんと揃いましたよね。これは私どもが意識してそれぞれのお立場の、例えば組合があれば、漁業が出れば農業も出なければいけないというようなバランスもちょっと考慮したこともあったのでいいかたちの配置になったのではないかと思います。

今度もそういうことでご意見を伺うときに、アトランダムに選ぶんですが、男女の比だとか、お立場というか、まちのどこの所在地であるとか、そういうことも考慮させていた

たくし、年齢も若干考慮させていただくということがあるんですけれども、それはまた皆様とご相談しながら次回は選ばせていただこうと思うんですが、御前崎のバランスは、今中村さんおっしゃっていただいた、まあまあちゃんとできていたと。

○碧海委員 ちょっと質問なんですけれども、東井さんの要望書で見ると、3人の発言者も参加していましたという3人というのは、最初の一部で意見を述べた人の中に3人、「浜岡原発を語るかい」の方がいたということですか。

○木元座長 この反省会に、ここに出た発言者……

○碧海委員 3人の発言者と書いてあるんですけども、ということは、最初に1部で発言した……

○木元座長 パネリストとしてですか。これはわかりません。伺ってみたいと。会場からもしれないし。

○碧海委員 そういう意味ですか、

それともう一つは、②の窓口としてというところで。

○中村委員 多分この発言者のことだと思うけどね。

○木元座長 この我々の中の。

○吉岡委員 反省会に発言者が3人いた。

○碧海委員 3人の発言者というね。

○木元座長 パネリストとしてお名前が今ここに出ていますよね、この中の3人なのか、会場で手を挙げられた中の方、それはわからない。

○中村委員 3人のつもりで書いているんじゃないの。

○碧海委員 1部の方ですか？

○中村委員 1部の方。

○碧海委員 というのは、2番に第2部の時間が予定より大幅に少なくなった、予定どおり進行してほしかったとありますよね。さっき第1部の方をむしろ少し延ばしてでも第2部の方を縮めてでもとお話があったけれども、これはなぜこういう意見が出ているのかというのをちょっと考えていたんですが、もし「浜岡原発を語るかい」の方が3人、その一部で参加していたのなら、その1部が多少長くても問題ないでしょうね。だからそれでちょっとこれはどういうことなのかなと思って今考えたのが、疑問として一つあったのと、それからさっきから福岡と浜岡と両方のアンケートを見ていて、やはり私たちが思っているよりはいい評価が多いと思うんです。不満とかいう意見がもっと多くてもいいんじゃない

いかと考えていたのですが。期待しているとか、大体満足したと、大いに満足したも含めて、満足した率が割合と高いというふうに私は思うんですけれども。ということは、企画している側が何回か繰り返している中で毎回いろいろな反省点もあり、私なんかは個人的にはやはり不満に思うことが結構多いんですけども、参加している人は意外と満足度は高いのかな。

本来、原子力をテーマにした会なんて余りみんな出たがらないですよ。私の周辺にいる一般の女性なんていうのは、大体原子力テーマなんて聞いただけで出たがらないから、そういう意味で予想しているより満足度が高いなというのが私の感想なんですけどね。

○木元座長 それは当然と言ってもいいんだと思うんですが、最初、市民懇立ち上げたときに、これは碧海さんや中村さんにも、井上さんや小川さんも行っていただきましたけれども、誤解していましたね。市民懇は原子力委員会だから説明会じゃないかと。何か押さえつけに来たんじゃないかと。あるいは、単なるこれはパフォーマンスで中身は何もないんじゃないか、そういう意味での見方が強かった。ご相談をしているうちに、ちょっと違うなと思われた。開催場所から時間から、だれをパネリストにするかとかテーマとかもみんな話し合いながら地元とやってきました、我々と。ですからちょっと問題視する方々が逆に目覚めたというか、市民懇だけは違うぞという見方をしてくださってきたんじゃないかと思う。だからここに出てくださった方が、割合高く評価してくださったのは、今までと違って、まず、我々の意見をすんなり聞いてくれるじゃないかと。例えば反対意見を持った方もちゃんとこの市民懇の中にはいらっしゃるじゃないか、コアメンバーの中に。そのことでの評価が随分あるような気がします。

公明正大にオープンで全部やっていますし、ずっと後半は中村さんが仕切ってくださいているんですけれども、それもその精神で全部仕切ってくださいているので、逆にもっと推進の説明してくれるんじゃないかと期待して来た人はがっくりだと。それは言えますよね。

○中村委員 それはあるんじゃないかと思えますね。

○吉岡委員 御前崎の7ページと福岡の6ページを見比べて、私は若干印象を持ったんですけれども、御前崎の方が有意に不満の方に感想がシフトしていて、普通以下で見ると5割強、余り満足しなかった以下だと3割強。それに対して福岡の方は普通以下が3割弱となっている。そういうことで明らかに違うようにというのがとても印象的で、これは私の認識とは異なるんです。私の感想では、福岡のは第1部、中村さんが司会で何とか盛り上

げようと大変努力されたんだけれども、どうも盛り上がらなくて、井川さんだけが挑発的に意見を述べたんだけれども、ほかの方が知りたい情報ではなく知らせたい情報を話したり、焦点が定まらない発言をしたりで、恐らくそれも若干影響して第2部の議論も余り手を挙げる人間がいなかったというようなことで、福岡は私としては失敗だったかなと。失敗は言い過ぎですけども、中村さんの努力は大いに買うのだけれども、私としては非常に残念なことであったと思うんですけども、御前崎は盛り上がったという点だけでも、とてもよかつと思うんですが、それが内容、雰囲気についての数字で見ると逆になって、そういうものかなと。数字の見方というのはおもしろいなというふうに。

○木元座長 あくまでも参考ですけども、おもしろいものですね。

○吉岡委員 私なりの分析はありますけれども、ここでもう時間がないのでやめます。

○中村委員 声なき声を本当は木元さんはお聞きになりたいんでしょうけれども、なかなか声なき声は出てこない。そうすると、今日最初から僕が発言しているのに関連するんですけども、反対派の人たちのガス抜きの場合と、本当にある程度彼らがこういうアンケートで大体満足したというふうにもし〇をつけるとしたら、そのバランスというのはいさぐい微妙だと思うんですよ。結局、ガス抜きだったのかというので、当人たちはもちろんだけれども、周りの人間にとってもそういう意味でのある種の不快感、不満足感みたいなものというのが残るケースもあって、そのところは非常に微妙なんですけど、ただ反対派の意見を基本的に遮らない、ちゃんと聞く会であるということは多分認識してもらっていて、それが逆にそういう人たちにとっては「だいたい満足した」の方になってきて、もうちょっと何か推進派としては、力強い言葉を聞きたかったと。そうすると、例えば原子力委員の皆さんもいらっしゃるんだけれども、生の声がなかったというようなあたりでやはりちょっと不満だったに〇がつく。やりながらの気分ですけども、僕の受け取った、参加している皆さんの気分というのが、何かそんなふうになっているのかなというのは時々感じるんですが、御前崎もちょっとその傾向はありましたね。

○木元座長 あるかもしれませんね。私もその後行ったときに、そのことをすごく感じました。だったら、自分がまず声を上げればいいんじゃないと言ったんですけど。人に言ってもらってうれしかったとか何か言うので…。

○中村委員 ただ、それが基本的な一般市民、オーディナリーピープルだということもやはり認識しておかなくてはいけないのかなと思いますけどね。

○木元座長 そうですね。そうすると、今日の両方合わせて基本的なこともちょっとお話

しさせていただいたんですが、次のテーマにかかりますけれども、次に開催するときそれを踏まえながらちょっと検討させていただきたいと思いますが、3つ目の資料として、赤池さん、それを中心にまたお話しいただけますか。

i n福岡と御前崎のご意見の集約をどうしたかというのをご説明いただきます

○赤池補佐 市懇第23号-2号の(3)でございますが、これは市民参加懇談会 i n福岡・御前崎でのご意見につきまして、対応ぶりについての考え方を整理している紙ということでございます。これは扱いとしまして、一応原案の方は木元先生と相談しつつ事務局とでつくらせていただきましたけれども、ここのコアメンバー会議でご了解いただければ原子力委員会に報告してまた関係省庁にお伝えするというようなスタンスでこの紙の記述になっております。

では、その中身についてご説明させていただきますと、大きくいただいたご意見につきまして大きくりに分類をさせていただいて、それに対応するご意見がその次の欄に示されていると。これはあくまでもその主なものであくまでも例示ということでございます。

そしてそれに対する対応ぶりの、あるいは各省庁に伝えるべきことをこの対応というところでまとめております。

それで個別の意見との対応というところでは、これは前の資料(1)、(2)の方でご意見につきましての番号をつけさせていただいていますけれども、これとの対応ということで整理をさせていただいているものでございます。

それで中身について非常に短く説明させていただきますと、まず主なものとして広聴・広報の手法としてここに書いてあるようなご意見をいただきまして、対応ぶりの案としましては、原子力政策大綱では広聴・広報の項、それから学習機会の整備・充実では正確に示させていただいていることでもございますけれども、引き続きということでございます。これを踏まえて関係機関はわかりやすい説明に務めていくのが望まれるという書きぶりになっております。望まれるというのは、関係機関に今後こういう形でいただいたご意見を参考に政策を遂行して欲しいという意図を望まれるという形で盛り込んでおります。

それでマスメディアに対する情報伝達のあり方につきましても、例えば原子力大綱では原子力と国民・地域社会の共生、それから透明性の確保、広聴・広報の充実というところで十分書かせていただいておりますけれども、国としても引き続き、国民との相互理解を深めるとともに、迅速かつ正確な情報発信に努めていくことが望まれるということでございます。



あと3番目の分類として学習機会の整備・充実でございますけれども、ここでも政策大綱で学習機会の整備・充実において国・事業者との取り組みの考え方が示されておりますけれども、これも関係機関においては引き続きの取り組み、例えば文部科学省、そのほか関係省庁において望まれるということでございます。

あと、4つ目の分類としまして、原子力委員会の運営そのものについてのご意見もいただきまして、ここは原子力委員会としてこのご意見をきちっと受けとめていくというご趣旨でこのような書き方をさせていただいています。

ということで、原子力委員会が原子力政策を進める際には問題を認識し、解決してもらいたいところについては評価の充実で大綱に示されているとおりに今後とも取り組んでいくと。

それからあとご意見、それからあと出した意見について、これはホームページ上で寄せられた意見ですけれども、これが回答がないというお話でございましたけれども、近日中に公開します。

それからあと、推進、反対でも一堂に介し両方の意見を聞く話し合いが大事というご意見につきましては、市民懇も含めて参加しやすい日時の設定などに努めると。

○木元座長 これなんかもう既にやっていることなんですけどね。

○赤池補佐 ページをめくっていただいてその他として整理させていただきましたのは、あくまでも……。

その他というのは、市民懇のむしろ政策の中身についてのご意見があったところは、そのうち重要なものについてその他として整理させていただいております、自然エネルギーの件、それから地震の件、エネルギーは長いスパンで考えるべきという件など、それから安全協定の件などをそこで書いております。

オフタイブインのスタンスとしては、前出たように、大綱で拾っていることは大綱で示されていますという書きぶりとともに、関係省庁においても臨まれるというような考え方を示しているところでございます。

あと、括弧書きの事実関係に際する補足でございますが、これは先ほどの先生方の議論でもございましたけれども、特にご指摘いただいた事項で事実関係についてきちっとお知らせした方がいいというような事項で、かつ重要なものにつきましてはご指摘、事実関係ということでそれに対する事実関係をこのように整理させていただいて示すということでございます。ホームページ等を通じて正確な知識が伝わるといういいなということで、あくま

でも参考として付記させていただいているというような形で、大体2枚ぐらいの紙で整理させていただいているということでございます。

以上でございます。

○木元座長 ありがとうございます。

ですからこれはもう既に同様なご意見がたくさん出ていて、それが今回の政策大綱の中に反映されるという部分もありますし、今後またさらに努力していく部分もありますということです。

それから、関係各省庁にはその都度、機会があったときにきちんとお伝えするという覚悟が裏にあると、こういうことです。

余り時間もなくなりましたが、次の開催なんですけれども、1枚紙があります。これはいつも見なれている紙なのであえて説明は要らないと思うんですが、今まで私の記憶では上の立地地域と消費地域と大体交互に考えていたんですが、御前崎やったから今度は消費地かなと思うんだけど、事務局の方からは北海道やっていないねとかいろいろ出ています。広島も前から出ていてやっていないですよ。何か今、こういうところがいいなというのがご意見ありますか。テーマがどうのこうのより、まず。

それから開催時期なんですけれども、今からやると、今12月のクリアランスレベルです。そうすると3月が目いっぱいですね。

○中村委員 年度内にやらないとまずいですよね。

○木元座長 年度内、そういうことがある。だから3月にやりましょう。今ここに行きたい、行った方がいいといったようなご意見ありますか。

○中村委員 例えば松江というのものもあるんだけど、九州、四国、中国、そして中部というのはプルサーマルがみんなあるので、そこで微妙なんですよね。一つには、九州、四国についてはエネ庁も講演会をやったりシンポジウムをやったり始めていますよね。中国だから松江もそういう対象にもうなっちゃうのかな。

○木元座長 もう発表されますね。

○中村委員 だから多分そのあたりの事情が各地あるので、どう判断するかですね。この間の福岡みたいになる可能性もあるし、逆に御前崎スタイルでしっかり聞くにはそういうところの方がいいかもしれないし。単なる消費地で、札幌あたりだとはっきりって泊の認識が薄いですから。岩内町でやるとかといったら別ですよ。

○木元座長 遠くて移動が大変、そうなってくると。

○中村委員 大変だけれども、しかも冬だと札幌から普通でも車で岩内まで2時間ぐらいかかるから雪道だともうちょっとかかる。ただ岩内あたりだと泊を含んだあの周辺というのは全部生活圈、文化圏、学校なんかはかなり学区なんかも共通しているところがあるから。

○木元座長 今回は消費地の方がいいんじゃないかと思うのですが。

○中村委員 例えばスタイルの話ですけれども、札幌で御前崎スタイルはちょっと無理だな。そうすると、福岡スタイルをもう一回考えるかという。

○木元座長 そういうことです。

やり方は工夫がいろいろあるでしょう、その地域によって。以前、広島はどうかというのは中村さんじゃなかったかしら。

○中村委員 広島は一応申し上げましたけれども、多分、中国電力さんが勘弁してくれとおっしゃるんじゃないですかね、広島は。

○木元座長 上関の問題もあるしね。

○中村委員 それとやはり友人なので言いにくいのですが、市長が上関の一坪運動に加わったでしょう。そういうこともあるので、ちょっと厳しいかなという感じですね。

○木元座長 そうすると、第1候補として幾つか考えられるのは、鹿児島もありますよ、立地だったら。川内が。

○中村委員 薩摩川内でしょう。これはまた、そんなの別に事業者の気を使うことないんだけど、九電も玄海で今一番そこに……

○木元座長 手一杯だから。

○中村委員 川内までやるのかという話になりかねないなと思って。事業者に気を使うこともないけど。

○木元座長 第三者的な視点から見た場合にどうでしょうね。

兵庫県姫路というのは井上さん、どうかしら。姫路でしたっけ、前から仰っていたのは。

○井上委員 そうですね。都市の規模から指定都市になって、大きいですね。45万ぐらい。エネルギー関係では……

○木元座長 S P r i n g 8の話はできるかもしれませんがけれど。

○井上委員 放射線利用。

○木元座長 放射線利用も重要だから。

○井上委員 原子力の明るい原子力みたいな、プラスの原子力。放射線医療。医療の最先

端、放射線治療ということでは見学者もすごく多いし、国際都市みたいにすごくいいところ。国際都市をつくらうとしている。

○齋藤原子力委員長代理 Spring 8 では、国際会議も姫路でやったことがあり、市長さんにも喜んで頂きました。

○木元座長 そうすると、放射線利用を含めて新しい21世紀に原子力というのはどうなるだろうかという、この間福井で我々がやったようなテーマでもできますね。

○井上委員 ちょっと変えるとするならそういうふうな。

○木元座長 広い視野でいきますか。今のご意見だと兵庫でいいですか、姫路。

○中村委員 おもしろいかなとは思いますが。

○木元座長 今までやっていないから、こういうレベルは。兵庫、姫路。放射線利用を含むと。

○中村委員 ちょっと行けば三菱重工で原子炉もつくっているしね。

○井上委員 臨床ももう入りましたから、実際の治療にももう入っています。病院もありますし。

○木元座長 放射線の利用をどこかでメインに据えて、これからの原子力という大きいテーマでいかせていただく。

○中村委員 そうするとやはり1部、パネルディスカッション的なところで情報共有をする場にしたい方がいいですかね。

○碧海委員 パネリスト出して。

○中村委員 専門のパネリストをやはり立てて。

○木元座長 それで、もう放射線利用はやらない方がいいという方も何人かいらっしやれば、その方にも入っていただいて。

○碧海委員 放射線治療センターについてはもうほとんど否定的な意見はないですね。

○中村委員 放射線治療についてはないでしょう。

○吉岡委員 私はどうかなという気はするんですけども。それでもいいんですけども、私がこういうことについてパネリストに、ならないんですけども、仮になったとすると、例えば関西の原研が原子力と関係ないことばかりやっているとか、それはなぜなのかとか、議論したい。Spring 8 も原子力と関係があるのかないのか相当グレーな問題だと思います。また放射線治療については費用対効果がどうなのかとか、そういう観点からの詮索というのはできるので、だから呼ぶとすればそういう系統の人がパネリスト

かなという気はするんだけど、それは原子力とは相当に外れた話なんじゃないのかなという気がして、それでもいいなら。

○木元座長 エネルギー利用とは離れているけれども、広い意味での原子力。

○齋藤原子力委員長代理 原子力は昭和31年の第1回原子力長計からエネルギーとしての利用と放射線の利用を2つの柱として来ているのです。それで原研の研究も放射線の利用を幅広くやってきたわけです。

○木元座長 私、今の吉岡さんの意見すごくいいと思いました。やはりそういう視点がありますよ、市民の中には。あんなにお金いっぱい使って、治療だって一部の人しか受けられないんじゃないかとか。そういうのに対して疑問をぶつけるべきだと思う。放医研にわざわざ行ったがん患者がいて、それが拒否されたという話。そういう実態もあるので、だから何か広く利益をいただく場合にどういう方法があるのかということも話した方が、未来の原子力のためにはいいはずですね。

○碧海委員 放射線利用はとにかく一般の人は知らないから。前にも申し上げているけれども。だからやはり1部でそれなりの情報提供をしなければ無理です。

○木元座長 1部はこの場合、現状の放射線利用の様子。どれだけリンクできるかわからないにしても、食品照射の検討会も立ち上げたし……

○中村委員 治療だけではなくて、どうしても照射の話もやらないと、これも受け取り方が両極端だから。

○木元座長 つまり、放射線利用ってどういうことなのかということと、それから現状はこういうふうなことをやっているかということとを踏まえる。

では、これで姫路ということで進めさせていただいて、あと場所の候補を事務方の方で挙げていただいて、日時は皆さん方にまた〇×でお尋ねします。3月。上旬、中旬、下旬といった場合、下旬ですか。

○赤池補佐 ちょっと下旬は年度末の関係があって、できれば中旬ぐらいまで。

○木元座長 では、中旬。

○中村委員 市民参加懇談会としても初めてのケースになるからね。ワイドレンジのテーマでやるという。キャスティングもちょっと慎重に。

○木元座長 やりましょうね。

それで公募のパネリスト、それともこちら側からお願いしてしまいますか、このテーマの場合。あるいは、公募でご意見をいただいて、その中から半分は出ていただくとか。さ

つき言った大勢の人がいた方がいいという方式をとってみますか、まずこれ。

○中村委員 いや、それは……。

○木元座長 これは要らないですか。

○小川委員 ちょっとまだ、このテーマでは。放射線利用のテーマだったら……

○中村委員 それやるときはやはり発電がテーマのときですよ。

○木元座長 そうすると、多くて8人ぐらい。

○小川委員 それも多いと思う。

○木元座長 でも分野があるじゃない、放射線利用でも。

○中村委員 だからこの場合はやはり1部、2部構成が、1部はやはり情報共有しなければいけないから、情報提供も含めたのをパネルディスカッション形式でやるというのは多分必要ですよ。普通のストレートな講演会では多分講演を2つ、3つ聞かせるというのは無理だから、だからパネルの形式で何とかやって、2部ですよ。2部をどう考えるかというところで。

○小川委員 2部は意見というか質問もありという感じで。このテーマだったら聞きたいことたくさんあると思う。

○碧海委員 放射線治療センターは県絡みだから、さっき木元さんが言われた実際に治療を受けられるかどうかのプロトコルなんかも割合と明確なんですよ。

○齋藤原子力委員長代理 あそこは県立です。

○碧海委員 ですよ。いいと思いますし、あと放射光の方で割合に生活に密着した研究なんかにかかわっている方のだれかお一人お願いできればと思うんですけどね。

○木元座長 それは1部じゃなくて2部ですか。

○碧海委員 1部。

○中村委員 2部の方をどうするかですよ。完全にオープンにしてどんどん質問やご意見というふうにしちゃうか、ここも何人かの発言者を用意するか。

○小川委員 多分、本当に治療が幾らかかるんですかという聞きたい人もいるでしょうし。

○碧海委員 治療を受けた人はいますよね。

○中村委員 そういう経験のある人の発言もあるかもしれないけれども、どうするのがいいですかね。もうオープンにしますか。

○新井委員 ちょっとなくていいんじゃないですか、2部は。30分とか何かを用意しておいて。

- 中村委員 さっき僕が言った形式で、なるほど。
- 新井委員 もういろいろ伺って、全国聞きたいとか、そういう話になりませんか、だってこの話。
- 中村委員 なると思います。ですからパネリストがちゃんと答えられるパネリストさえ用意してあれば。
- 木元座長 だから私はもう少し多い方がいいと思ったのは、その部分。分野が違うから、4、5人じゃなくて8人ぐらいいてもいいかなと思ったの。患者側とか。
- 小川委員 パネルディスカッションで8人ですか。
- 木元座長 意見陳述する人として。後はもう、会場からもし仮に来たら答えられる分野の人がいるという。
- 木元座長 ちょっと初めての試みだから、いろいろご意見があると思うけれども。
- 碧海委員 あそこは光タウンでしたっけ、一応放射光のあるSPRING 8のあるところはちょっとした町になっていますよね。ほかの施設もいろいろあるわけですよね。
- 井上委員 大学もある。
- 碧海委員 筑波みたいな感じの。
- 中村委員 だからあれだね。イメージとしては、休憩を挟んだ1部はあるんだけど、内容的には1部、2部なし。
- 木元座長 もうずっとつながっている。
- 中村委員 テーマで前半、後半と分かれる。最後のところに20分か30分の会場からのご質問、ご意見を受ける時間をつくるという。
- 木元座長 事前に書いてもらうの、ご質問。それを今度は網羅して。こういうご意見が来ているとやればいいわけだから。
- 中村委員 それはもちろんディスカッションの中で使えばいいんだけど。だからちょっと今までとまた違うけれども、基本的にパネルディスカッションスタイルで、のちょっとシンポジウムスタイルを加味してみんなと情報を共有し、知りたいことを今度知ってもらう会にして、最後にもっと知りたい、ここがわからないという質疑を受けると。これだったらそういう形式ですかね。
- 木元座長 それしかないですね、多分。だからご意見はしっかり承るということは、ご質問はしっかり承って、そこで答えられるものはそろえておきましょうと。それでどうするかということが次の展望になるわけだから。

○吉岡委員 まだいまひとつ飲み込めていないんだけど、姫路というと京阪神に非常に近いので、もしかしたらたくさん放射線問題に関心のある方がたくさん来られる、聞きたい人は大いにいると。先ほど言った医療過剰被ばくだけではなくて、原発の被ばくとか、そういうことも含めて多くの方が押しかける可能性があるので、だからテーマの設定によっては、放射線利用の開く未来とかそういう啓蒙的な形ではなくて……

○木元座長 そのようなタイトルはやめようよ。

○吉岡委員 そうじゃなくて放射線。放射能問題を中心に据えて考えて、意見も聞きましようというような形で、第2部はそんな短くしなくても、そういう構えでやればいっぱい発言者はいると思うんですよ。

○碧海委員 やはり主要テーマは情報だと思うんですよ。情報は届いているかだと思うんですよ、放射線も放射線利用も。

○木元座長 今回、その中の放射線を取り上げる。

○中村委員 その方が放射線こそ本当に、何が知りたいのかもわからないという話も含めて、何が行われているかもわからないという。

○木元座長 未来を拓くみたいなタイトルは説明になっちゃうから、それはもうどこかの人がやってくださいと……

○中村委員 僕らは、政府からのPRじゃないんだから、それはやらないよね。

○木元座長 それはタイトルのつけ方を含めて、我々の今までのスタイルは破らない。この姿勢は堅持してつけることにします。もしご意見あったら後でメールでもファクスでも送っていただければいいので、お手数掛けますが後で日時の設定を含めて、また〇×でお願いします。

それでいつもこのときに中心になってフォローしていただく方をコアメンバーの中から二、三人お願いしているんですけども、今度もまたちょっとお願いしていいですか。放射線だったら碧海さんお願いしたいんですけども、いいですか。

○中村委員 碧海さんはやはりこのテーマだったら。

○碧海委員 このテーマなら入ります。

○木元座長 お願いします。あともう一人どなたかいらっしやらないかな。

○吉岡委員 やってもいいです。

○中村委員 違うアングルからのアプローチがあるから、吉岡さん入った方がいい。

○木元座長 一応、碧海さん、吉岡さんお二人に。



○碧海委員 東嶋さん。東嶋さんは放射線の本を間もなく出すはずですから。

○木元座長 では、やってもらわなきゃ。そういうことで決めさせていただきます。

参加人数は今までの200名でよろしいですか。200名ぐらいで。会場にもありますけど。

○井上委員 たくさん見えるんじゃないんですかね。

○木元座長 そうすると200から300。

○中村委員 今回はああいうラウンドテーブル式で、周囲にオーディエンス席は多分とれないと思うので、ステージのある、結構キャパのあるところにした方がいいんじゃないですか。

○木元座長 それも会場と日時のバランスによって。交通の便もありますし。

○中村委員 あそこなら、姫路なら。

○井上委員 お城の近くに大きなそういうもの、お城の近くに。駅も近いし。

○木元座長 では、それチェックします。

ということで、3月の中旬ぐらいまでにやりましょう。よろしくお願いします。

○井上委員 皆さんは、S P r i n g 8、先生方は見学は。

○木元座長 見ていないんです。だから私もちょうどいいので。

○中村委員 僕も見ていないです。

○木元座長 ちょうどいいですね。お勉強を含めていきましょう。コアメンバーの学習です。

○齋藤原子力委員長代理 車で行くと姫路から小1時間です。

○木元座長 ちょっと時間をとりましょう。

それから次回のコアメンバー会議ですけれども、日時とか議題はまた別途調整させていただきますが、この今度の「市民参加懇談会 i n 姫路」が決まったことを中心に次回のコアメンバー会議、開催させていただこうと思います。

2月に1回ぐらいやらなければならないかなと思っていますが、これも状況によってまたご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それと議事録の取り扱いについていつものように、またこれは公開というかホームページに載せるということで、皆さん方のご確認いただいた後で公表させていただきます。よろしくお願いいたします。ではちょっと時間を過ぎましたけれども、これで今日は閉会させていただきますが、何かほかにございますか。

今事務局の方から、土日の開催も含めて入れていいかというお尋ねがありますが。

○中村委員 逆にこれは土日の方がいいかもしれないですね。

○井上委員 土日だから出られる可能性は高いですね。

○木元座長 テーマによって。

○中村委員 しかも、いいロケーションの、それこそ姫路城の近くの国際会議のできるような施設が例えば使えるとなったら、土日で相当集まるんじゃないですかね。

○碧海委員 打ち合わせも含めて土日でも構わないです。

○木元座長 土日を含めてちょっと考えます。見学コースも含めて。

○齋藤原子力委員長代理 土、日曜の見学は難しいと思います。

○木元座長 それを含めて考えます。だから、金曜日の午後……

○中村委員 逆に、土曜日に決まったら金曜日に見学して次の日、本番でいいでしょう。日曜日だったら月曜日見学とか。

○木元座長 考えます。

○齋藤原子力委員長代理 播磨科学公園都市には、見学場所として、Spring8と兵庫県の県立粒子線治療センターがあります。

○木元座長 できたら前の日に見て本番に臨んだ方が、知識は入っているということですね。金曜日から考えましょう、金、土ぐらいに。また企画を立てご連絡を出しますので、お手をかけない範囲内で合理的に実行させていただきます。ありがとうございました。よろしく願いいたします。